

1 水稲

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
イネドロ オウムシ	やや早い 6月第1半旬 (6/1~6/5)	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査の結果、成虫の発生量は平年より多かった。(/+) ・前年の発生量が平年並であったことから、越冬密度は平年並と推測される。(/±) ・日最高気温 20℃以上が本田侵入の好適条件であり、向こう1か月の気温は平年並か高いと予報されている。(±~- /)
イネミズ ゾウムシ	やや早い 5月第6半旬 (5/26~5/31)	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査の結果、成虫及び被害の発生量は平年より多かった。(/+) ・前年の発生量が平年並であったことから、越冬密度は平年並と推測される。(/±) ・定点調査の結果、越冬成虫の発生始期は平年よりやや早かった。(- /) ・向こう1か月の気温は平年並か高いと予報されている。(±~- /)

2 りんご

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
斑点落葉病	—	やや多	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の発生量は平年よりやや多かったことから、伝染源量もやや多いと推測される。(/+) ・巡回調査の結果、新梢葉における発病葉率及び発生地点率は平年よりやや高かった。(/+) ・高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)
モモシンクイガ	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ・前年の発生量は平年並であったことから越冬量も平年並と推測される。(/±) ・高温が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年並か高いと予報されている。(/±~+)
ハダニ類	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。(/-) ・25℃前後の気温と少雨が好適であり、向こう1か月の気温は平年並か高く(/±~+), 降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)
アブラムシ類	—	やや少	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査の結果、新梢寄生率は平年より低かった。(/-) ・少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

3 なし

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
黒星病	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の発生量は平年並であったことから、伝染源量は平年並と推測される。(/±) ・巡回調査の結果、果そう葉における発病葉率は平年並であった。(/±) ・20℃前後の気温と降雨が好適であり、向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)
ハダニ類	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/—) ・25℃前後の気温と少雨が好適であり、向こう1か月の気温は平年並か高く(/±～+), 降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)
アブラムシ類	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ・少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

4 夏秋キャベツ

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
コナガ	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査の結果、寄生株率は平年よりやや高かった。(/+) ・フェロモントラップでは、平年と同様に誘殺が確認されている。(/±) ・20℃前後の気温と少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)
アオムシ (モンシロチョウ)	—	やや少	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査の結果、寄生株率は平年よりやや低かった。(/—) ・20℃前後の気温と少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)
ヨトウムシ (ヨトウガ)	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査の結果、寄生株率は平年並であった。(/±) ・20℃前後の気温と少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

5 作物共通害虫発生現況

病虫害名	発生時期	発生量	発生現況
コナガ	—	—	・フェロモントラップによる誘殺時期は、各地点で平年並であった。 ・向こう1か月の気温は平年並か高いと予報されており、発生状況に注意する。 ・コナガは、フェロモントラップによる成虫の誘殺がみられてから5～10日後に幼虫が増加する。
オオタバコガ	—	—	・登米市のフェロモントラップでは、5月第3半旬に平年より多く誘殺されている。 ・その他の地点では、平年並の誘殺状況となっている。 ・向こう1か月の気温は平年並か高いと予報されており、発生状況に注意する。

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+)：遅くなる要因 (±)：平年並になる要因 (－)：早くなる要因 (空欄)：該当せず
発生量…(+)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (－)：少なくなる要因 (空欄)：該当せず

より詳しい内容は、下記HPでご確認ください。

宮城県病虫害防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第4号の発行日は、6月25日(金)の予定です。

ー初期害虫の発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月18～21日

定点調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台5月27日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期 (産卵盛期)	発生量
イネドロオウムシ	やや早い 6月第1半旬(6/1～6/5)	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果,成虫の発生量は平年より多かった。
- (2)前年の発生量が平年並であったことから,越冬密度は平年並と推測される。
- (3)日最高気温20℃以上が本田侵入の好適条件であり,向こう1か月の気温は平年より高いと予報されている。

病害虫名	発生時期 (成虫本田侵入盛期)	発生量
イネミズゾウムシ	やや早い 5月第6半旬(5/26～5/31)	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果,成虫及び被害の発生量は平年より多かった。
- (2)前年の発生量が平年並であったことから,越冬密度は平年並と推測される。
- (3)定点調査の結果,越冬成虫の発生始期は平年よりやや早かった。
- (4)向こう1か月の気温は平年より高いと予報されている。

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤抵抗性の発達防止のため,同一作用機構分類に属する剤の連用を避け,計画的にローテーションを組む。

(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

(2)イネドロオウムシ・イネミズゾウムシ

- ・箱施用剤を使用した場合は,原則として本田での防除は必要ない。
- ・箱施用剤を使用しなかった場合は,移植後に以下の要防除密度を目安に防除を行う。

イネドロオイムシ	侵入盛期(予想:5月26～31日)の成虫密度:100株当たり25頭,又は産卵盛期(予想:6月1～5日)の卵塊密度:100株当たり80個
イネミズゾウムシ	侵入盛期(予想:5月26～31日)の畦畔際2m程度の成虫密度:100株当たり140頭(晩期栽培の場合は70頭)

- ・稲が小さいうちに加害されると被害が大きくなるため,侵入盛期近くに移植する場合や生育が遅れている場合は発生に注意する。
- ・イネドロオイムシについて,箱施用剤を使用した水田で発生が多い場合は薬剤感受性が低下している可能性があるため,農業改良普及センター又は病害虫防除所に御相談ください。

(3)いもち病

- ・本田でのいもち病の発生源となるため,補植終了後の苗は速やかに除去し,裏返す等,適正に処分する。

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物,使用時期,使用方法等を十分に確認する。特に,水田用除草剤や水田で粒剤を使用する場合は,止水に関する注意事項を確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い,適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には,防除器具を点検し,十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し,周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し,使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては,最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

ー6月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査は:5月 18～21 日

定点調査は:名取市高館(農業・園芸総合研究所)

天候予報:仙台管区气象台5月 27 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 昨年の発生量は平年よりやや多かったことから、伝染源量もやや多いと推測される。
- (2) 巡回調査の結果、新梢葉における発病葉率及び発生地点率は平年よりやや高かった。
- (3) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
モモシンクイガ	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 前年の発生量は平年並であったことから越冬量も平年並と推測される。
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年より高いと予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、寄生は確認されなかった。
- (2) 25℃前後の気温と少雨が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、新梢寄生率は平年より低かった。
- (2) 少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう雨の合間をみて防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は、病害虫の発生源になりやすいことから補完散布するとともに、不要な徒長枝を整理する。
- ・薬剤耐性菌対策のため、FRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーションする。DMI 剤 (FRAC コード※:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11) 及び SDHI 剤 (FRAC コード:7) 並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。

※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。

(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)斑点落葉病

- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が数日から7日程度と短く、高温多湿が発生に好適である。向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予報されていることから、急激に症状が増加する場合がありますので、予防防除に努める。

(3)モモシンクイガ

- ・産卵場所となりやすい「がくあ部(果頂部)」を観察して産卵期を見極め、適期(産卵盛期)に防除する。多発園地では、殺虫剤散布の補助手段として交信攪乱剤を使用することもできる。
- ・被害果(園地周辺のウメ、モモ、スモモ等も含む)は、次世代の発生源となる場合があるので見つけ次第取り除き、5日以上水漬けする等して適切に処分する。

(3)ハダニ類

- ・ハダニ類の越冬量が多かった園地では、早期から寄生密度が高くなる傾向にあるので、園内をよく見回り、**1葉当たり3頭以上**寄生している場合は防除を実施する。
- ・ハダニ類は、園内に生息しているもののほか、周辺から移動してきて加害することもあることから、隣接する他作物や雑草での発生にも注意する。

(4)アブラムシ類

- ・発生が見られる場合は、他の害虫との同時防除とするが、寄生種によっては防除効果が異なる場合があるので、種を見極めて薬剤を選定する。また、新梢伸長期に多発している場合は、追加防除を行う。薬剤防除を行う場合は、新梢等の寄生部位まで薬剤が行き渡るように散布する。

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物, 使用時期, 使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い, 適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には, 防除器具を点検し, 十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し, 周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し, 使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては, 最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

ー6月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:5月 19～20 日

定点調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)

天候予報:仙台管区气象台5月 27 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 昨年の発生量は平年並であったことから、伝染源量は平年並と推測される。
- (2) 巡回調査の結果、果そう葉における発病葉率は平年並であった。
- (3) 発生に 20℃前後の気温と降雨が好適であり、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予報されている。



枯死したりん片が脱落せず残っていることが多いので目印になる



(参考)葉や葉柄の病斑

(参考)果そう基部病斑

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。
- (2) 発生に 25℃前後の気温と少雨が好適であり、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
アブラムシ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予報されている。

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう雨の合間をみて防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤーによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・薬剤耐性菌対策のため、FRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーションする。本県では現在までDMI剤(FRACコード*:3),QoI剤(FRACコード:11),SDHI剤(FRACコード:7)の耐性菌は確認されていないが、今後もこれらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とする。

※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。

(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)黒星病

- ・過繁茂にならないよう新梢を管理するとともに、伝染源となる果そう基部病斑や発病葉の早期発見・除去に努め、ほ場外に持ち出して土中深く埋めるなど適切に処分する。
- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が14~30日とされており、防除間隔が開きすぎないように定期的な予防防除に努める。

(3)ハダニ類

- ・ハダニ類の越冬量が多かった園地では、早期から寄生密度が高くなる傾向にあるので、園内をよく見回り、多数の寄生が見られる場合は防除を実施する。
- ・ハダニ類は、園内に生息しているもののほか、周辺から移動してきて加害することもあることから、隣接する他作物や雑草での発生にも注意する。

(4)アブラムシ類

- ・発生が見られる場合は、他の害虫との同時防除とするが、寄生種によっては防除効果が異なる場合があるので、種を見極めて薬剤を選定する。また、新梢伸長期に多発している場合は、追加防除を行う。薬剤防除を行う場合は、新梢等の寄生部位まで薬剤が行き渡るように散布する。

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物, 使用時期, 使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い, 適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には, 防除器具を点検し, 十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し, 周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し, 使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては, 最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病虫害防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

－6月下旬までの発生予報と防除のポイント－

巡回調査:5月18, 19, 21日

定点調査は:名取市高館(農業・園芸総合研究所)

天候予報:仙台管区气象台5月27日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
コナガ	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生株率は平年よりやや高かった。
- (2)フェロモントラップでは、平年と同様に誘殺が確認されている。
- (3)20℃前後の気温と少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
アオムシ(モンシロチョウ)	－	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生株率は平年よりやや低かった。
- (2)20℃前後の気温と少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

病害虫名	発生時期	発生量
ヨトウムシ(ヨトウガ)	－	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、寄生株率は平年並であった。
- (2)20℃前後の気温と少雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤抵抗性の発達を防止するため、同一作用機構分類に属する殺虫剤の連用を避け、計画的なローテーション散布を行う。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・薬剤は、葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。

(2)コナガ

- ・薬剤は中齢幼虫の時期までに散布するとより効果が高いため、早期発見に努める。
- ・本県でジアミド剤の感受性が低下した個体群が確認されている。ジアミド剤の効果の低下が疑われる場合には、異なる作用機構分類の薬剤による防除を実施する。

※ジアミド剤(IRAC コード 28):フェニックス顆粒水和剤、プレバソンフロアブル5、ベリマークSC等

※ジアミド混合剤:キックオフ顆粒水和剤、ジュリボフロアブル、ミネクトデュオ粒剤等

(3)アオムシ(モンシロチョウ)

- ・コナガ等の防除にあわせて、本種に登録のある剤を選択することで、同時防除が可能である。

(4)ヨトウムシ(ヨトウガ)

- ・巡回調査において一部ほ場で卵塊が確認されているため、葉裏をよく観察し発生に注意する。
- ・薬剤は若齢幼虫の時期までに散布するとより効果が高いため、早期発見に努める。
- ・葉裏に数十～数百個をまとめて産卵する。孵化後、齢がすすむと分散して食害し、防除が困難になるため、卵塊は見つけ次第処分する。

(5)アブラムシ類

- ・ウイルス病を媒介するとともに、多発してからでは防除が困難になるため、ほ場を観察して発生初期に防除を行う。

ー農薬の適正使用についてー

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

コナガ・オオタバコガの発生現況と防除のポイント

フェロモントラップ設置:角田市, 名取市, 大崎市, 登米市, 石巻市
天候予報:仙台管区气象台5月27日発表

1 発生現況

○コナガ

- ・フェロモントラップによる誘殺時期は、各地点で平年並であった(図1)。
- ・向こう1か月の気温は平年並か高いと予報されており、発生状況に注意する。
- ・コナガは、フェロモントラップによる成虫の誘殺がみられてから5~10日後に幼虫が増加する。フェロモントラップの調査結果は病害虫防除所のホームページ(下記 URL)を参照してください。

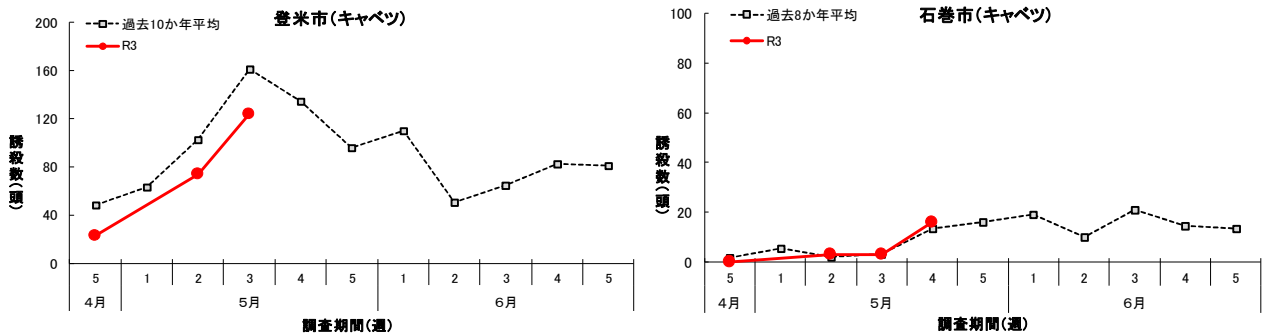


図1 コナガの誘殺状況

○オオタバコガ

- ・登米市のフェロモントラップでは、5月第3半旬に平年より多く誘殺されている(図2)。
- ・その他の地点では、平年並の誘殺状況となっている。
- ・向こう1か月の気温は平年並か高いと予報されており、発生状況に注意する。

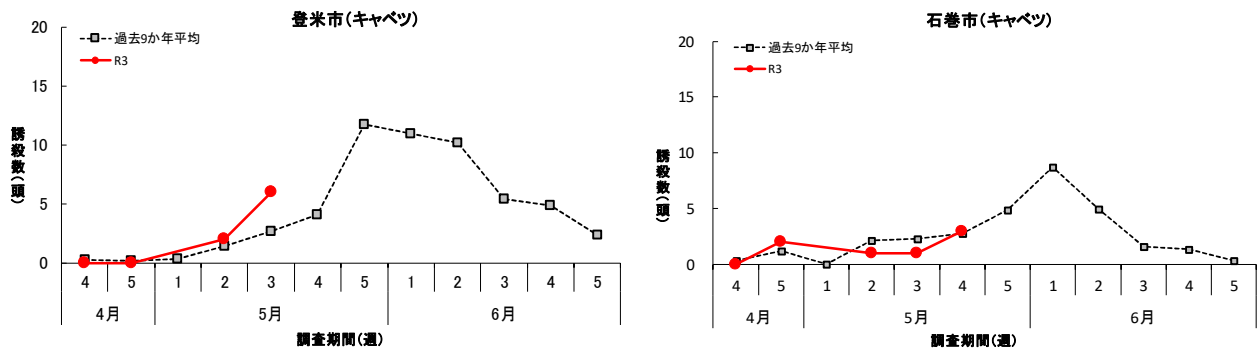


図2 オオタバコガの誘殺状況

その他の地点の結果は病害虫防除所のホームページを参照してください。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/r03trap.html>

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・薬剤防除は、高い防除効果が得られる中齢幼虫までに行う。
- ・薬剤抵抗性発達を防止するため、IRAC コード*が同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの

(2) コナガ

- ・『発生予報第3号 -夏秋キャベツ-』(5月27日発行)を参照。

(3) オオタバコガ

- ・寄主範囲が広く、雑草での発生も多いため、ほ場周辺の除草を実施する。
- ・生長点付近の茎葉・蕾・花・幼果に食入すると防除が困難になるため、ほ場をよく見回り見つけ次第捕殺する。
- ・被害部位の切除や摘心、摘蕾等で生じた残さには卵や幼虫がついている場合があるため、ほ場外で適切に処分する。
- ・施設栽培では、開口部に寒冷紗や防虫網(4mm目合以下)を張って成虫の侵入を防止する。

－農薬の適正使用について－

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp